

令和5年度第1回青森市社会教育委員会議定例会議 会議概要

- 1 日 時： 令和5年5月24日（水）13時30分～15時10分
- 2 会 場： 青森市教育研修センター 5階 大会議室
- 3 出席者： 棟方 梢議長、青木 敦子委員、石澤 千鶴子委員、大鷹 依子委員、小笠原 秀樹委員、滝口 小百合委員、長尾 信委員、平山 健一委員、米田 学委員
- 事務局： 教育部長 : 小野 正貴
教育次長 : 武井 秀雄
文化学習活動推進課長 : 東條 英哲
文化遺産課長 : 鈴木 謙一郎
中央市民センター館長 : 奥崎 和彦
市民図書館長 : 村上 泰子
指導課長 : 後藤 孝範
浪岡教育課長 : 福原 崇

4 次 第

- (1) 開会
- (2) 案件等
 - ①令和5年度社会教育関係年間予定について
 - ②令和5年度青森市社会教育関係事業実施スケジュールについて
- (3) その他
 - ①令和5年度青森県社会教育研究大会について
 - ②各委員からの社会教育に関する意見・要望等について
- (4) 閉会

5 主な質疑応答、意見等

- (3) ②各委員からの社会教育に関する意見・要望等について
 - ・コミュニティ・スクールについて全国的に推進されているが、学校側や地域の方々などの意識改革が伴わなければ先に進みづらいという問題もあるかと思う。そこで、今年度青森市ではどういったところを目指して進めていくのか。青森市として具体的に何かあるか。
⇒青森市の特色としては各中学校区にコミュニティ・スクールを設置しており、小中一貫となつて9年間で学校と地域が一体となり、各地域の特色に合わせ、地域と共に子どもたちの教育を進めていければと考えている。
 - ・某中学校区の学校運営協議会に参加した際、会議の大半が会則の改訂についての内容だった。会議として集まった以上、9年間で育てたい子ども像などについて話し合いができればと思った。そういった内容の話をもっと深められるよう、会議の内容を見直していただければと思った。
 - ・地域学校協働活動推進事業が学校ごとに地域と関わり、地域の力を活用しながら学校教育を進めていくと認識しており、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動推進事業の2つをそれぞれの学校事情に合った体制を考えて進めていただければと考えている。

・先日、某中学校区の4校合同で、家庭教育学級が行われた際、実施にあたり、学校の先生方やPTAのお母さん方のいろいろな工夫が見られ、子どもたちに聞いてもらいたい、学んでほしいというのが伝わり、うれしく感じた。

学校の先生方やPTAの協力によってこういった活動が行われていると思うと、コミュニティ・スクールの活動が活発になってきているのだなと実感した。

・小中連携推進事業で地域の方々を巻き込んでの新たな9年間で育てたい子ども像を今年度1年かけて取り組んで決めていければと考えている。

協力してくれる地域の方々の高齢化に伴う、人材不足も懸念されるため、新たな人材の発掘にも力を入れていければと考えている。

・現状行っているコミュニティ・スクールについてはかなり積み上げられてきていると感じており、この先子どもたちが県外に出ずに、地元に残り、地元のためにと考えてくれるような子どもが育ったという成果を見える化することでコミュニティ・スクールを行ってきた意味が見出せるのではないかと感じた。

・地域の活動について親御さんが自分のお子さんがいるとわりと手伝いやすいが、いなくなると「もう卒業したので…」となってくるのでそこを巻き込める何かがあればいいのかなと思う。

・はたちのつどいについて、昨年度、拝見したが各学校で特色を持って実施しており、母校に戻って、みんなで集まり、祝うというのはとても貴重な経験になっていると思う。

・棟方志功の記念のものを後世に残していくために、何らかの形で残していく方法を探っていくことが必要なのではないかと考える。

・子どもたちが読み聞かせに興味を持ってもらうための課題は親御さんがいかに本に興味を持っていたか、と、広くPR活動を行うことだと感じているので、多方面に協力を依頼しながら進めていきたい。

・事業を行っていくうえで、コロナウイルスの影響も少なくなってきたことから、新しい形の事業展開や事業計画を策定していくのが今後の課題ではないかと感じた。